

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 23～25 年度)

実施機関：順天堂大学（総括責任者：木南 英紀）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

女性研究者支援実現のため、学長総括のもと、部門長会により意思決定を行なう。また法人部門に設置する男女共同参画推進室と連携し、出産・育児・介護、復職支援等を検討する。具体的な取組は、男女共同参画推進室と協議し、女性研究者生涯支援推進委員会で検討する。

- ① 女性フィジシャン・サイエンティストの養成（研究医枠の活用）
- ② 女性スポーツロジストの養成（スポーツと医学の融合的研究者）
- ③ 学内外シンポジウムを開催する（啓蒙・広報）
- ④ 出産・育児・介護、復職支援等と病児保育支援と子育て環境の整備
- ⑤ 再教育支援企画（離職者復帰）

(2) 研究を支援する者の配置計画

研究支援コーディネーター3名、研究補助員2名を配置し、登録制の非常勤支援者を適宜配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

高い目標を設定し、学長のリーダーシップの下、環境整備や意識啓発等に精力的に取り組むことにより、女性教員を増加させた。医学研究科においては、女性教員の上位職への登用を積極的に進め、主任教授を含む3名の女性教授の誕生に繋げており評価できる。今後は、未達の目標の達成に向け、それぞれの部局の状況に即した実効性の高いポジティブ・アクションの策定と実施を期待する。

・**目標達成度**：女性教授が増加したことは評価できる。しかしながら、女性研究者が確実に増加しているものの、女性研究者の在籍割合や採用割合、医学部・スポーツ健康科学部における准教授以上の割合等に係る目標は達成できていない。今後は、部局も含め機関全体として現状を認識し、女性教員の更なる採用、登用に向けたポジティブ・アクション等の再検討が望まれる。

・**取組**：環境整備、相談体制の確立、意識啓発、女性研究者の採用や登用の促進、次世代育成と幅広い取組を行い、女性研究者の支援及び活躍促進に取り組んだ。病児保育室の運営の拡充、保

育所の大学院生枠の確保、研究支援員制度における女子大学院生枠の新設など、若手女性研究者のニーズを把握した取組を実施したことは評価できる。

・**取組の成果（システム改革）**：組織改革として法人直下に、男女共同参画推進室及び女性研究者支援室を設置し、女性研究者支援の基盤を構築したことは評価できる。今後は、女性教員の上位職への登用に加え、上位職による積極的な採用を期待する。

・**実施体制**：学長のリーダーシップの下、部門長会の直下に医学部長を室長とした女性研究者支援室を設置するとともに、各キャンパスに窓口となる構成員を配置し、連携を強化したことにより機関全体として女性研究者支援に取り組む体制を整備したことは評価できる。

・**実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：補助金額を上回る十分な予算を法人予算として確保し、すべての取組を継続しており評価できる。今後は、未達の目標の達成に向け、ポジティブ・アクション等の取組の見直しや強化を進めることを期待する。